

はばたくなら ④

主体的に遊ぶ子どもを目指して ～子どもの姿の読み取りから 保育士同士で学び合う～

取組について

■保育の質を向上するため研修は必要だが、その時間を確保していく難しさがある。またここ数年はコロナ禍で、行事や異年齢との関わり、集会など集まることに制限があったため、若手保育士が他の保育士の保育を見て学び合う機会が少なかった。子どもの姿からどのように環境を整え、保育を展開していけばよいかを、所内での会議や研修において交流をしているが、時間がなく報告し合うだけで終わってしまう現状があった。

■保育士自身も生き生きと保育を楽しみたいと思うが、日々の保育や業務に追われ、特に保育経験の浅い保育士にとっては、自分の保育に対する自信が持ちにくかったり、会議や研修の場においても発言しにくかったりして、なかなか子ども理解を深めるまでに至らなかった。

■保育士との安定した信頼関係の下で、子どもたちが生き生きと遊び、遊びの中からたくさんの学びに出会えるように、子どもの姿を理解し、一人一人が十分に満たされながら遊びを深め、「楽しい」「明日も保育所に来たい」「明日は〇〇して遊びたい」と感じ、主体的に遊ぶ子どもを目指して保育を進めている。そこで、はばたくならで紹介されている『保育わくワークシート』を参考にしてワークシートを作成し、今ある会議を活用しながら研修の機会をもつことにした。

取組を通して

子どもの心が動く瞬間を・・・

○子どもが何をおもしろいと感じ、そこにどのような経験や育ちがあったのか、次にどんな環境を用意するか、どんな言葉かけをするか、子どもの姿の読み取りから保育士間で意見を出し合うことで、様々な見方があることに気づき、子どもの理解だけでなく、遊びの方向性や、それぞれの保育観を深めていく機会となっている。

○否定的に捉えがちな姿も先輩保育士が肯定的に捉えた意見を出すことで、その子どもの育ちを広い視野で見ようとするきっかけづくりとなる。

○ワークシートを用いることで、遊びの様子などがイメージしやすく、回を重ねるごとに短い時間で意見を出し合い、研修を進めることができた。毎月の会議の前に定例化し継続して取り組めるようにしていきたい。

○遊びの振り返りから主体的に遊ぶ為のどのようなねらいをもち、子どもたちの活動を予測しながらどのような玩具や用具を用意し環境を整えていくかなど、今後も具体的に話をする事で保育所全体で共通理解することにつなげていきたい。

ワークシートについて

■遊びの一場面を切り取った写真と、その時の子どもの様子や保育士の関わりから、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿と照らし合わせて、多面的に子どもの育ちを捉え、シートに書き込んでいく。

この場面はなんでこんな行動をしたのかなあ。

10の姿でいうとどれに当てはまるだろう。

もしかしたらこんな気持ちだったのかも。

■みんなで意見を出し合い話し合ったことを受けて、子どもへの接し方や理解の仕方などの気付き、今後に向けての援助や保育の在り方などを書く。

実践事例

・子どもの姿からの読み取り

〈写真〉

健康な心と体

〈場面の説明〉

自立心
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり

思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

今後に向けて



■ワークシートには、遊び等の一場面を切り取り、子どもの姿について、なぜそうしたのか、どんな思いがあったのかをみんなで考え出し合った。

- ・幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿と照らし合わせながら考えることで、子ども理解を深められるようにする。
- ・発言しやすいように、ワークシートに自分の考えをまずは書き出し、その後に話し合う。
- ・振り返って話し合うだけに終わらず、次にどう環境を整えるか、どんな関わり方をするかなど今後に向けて意見を出し合う。

*まずは人格形成の基礎となる1歳児クラスの子どもの育ちを見据えて、園全体で考えた。

ワークシートを活用して

ワークシートを用いた研修を
やり始めた頃は…
どう考えたらいいの？
間違っていたら
どうしよう。
戸惑いと不安でいっぱい



定例会議に取り入れ、
継続して取り組む

なかなかスムーズにいかない…

- 毎月の定例会議開始前の15分程度で研修を行う予定だったが、設定時間通りには進まず時間がかった。
- 視点の持ち方に自信が持てず、いろいろな視点で子どもの姿を読み取りにくかった。
- 経験のある保育士の意見に流れやすかった。
- 一場面を提供してくれたクラスへのフィードバックまで時間がなくてできなかった。

会議	主な内容 (今年度より変更)
リーダー会 月1回 クラスリーダー	連絡事項の伝達 ワークシートを用いた研修
未満児部会 月1回 0.1.2歳児クラスの保育士	子どもの姿、行事、保育についての 共通理解・交流 ワークシートを用いた研修
以上児部会 月1回 3.4.5歳児クラスの保育士	子どもの姿、行事、保育についての 共通理解・交流 ワークシートを用いた研修
連絡会 月1回 クラスリーダー	翌月の予定について確認
ケース会議 年2.3回 対象クラス保育士・所長・ 副所長・家庭支援保育士	クラスの支援を要する子どもの 共通理解と今後の対応など
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 所内公開保育を同年度内に全クラス行い、実践をもとに研修を行う。 今年度よりワークシートを用いた研修を行う。 ◆ テーマ研修は、研究主題に基づき、各クラスの取組を報告し合う。 ◆ 企画会議（運動会や生活発表会などについての会議）はその都度行う。 	

10の姿への理解
を深めていきたい。

書くことで自分の考えを
整理しやすく、発言しやすかった。

ワークシートを用いたことで
イメージしやすかった。

より広い視野で
読み取ることができた。

思いや育ちに今よりもっと
目を向けていきたい。

子どもの姿をもっと掘り下げて共有
していきたい。

～ 保育士一人一人の気づき ～

経験年数に関係なく、会議に出た全員が話す機会になった。

援助や遊びを様々な視点で具体的に考え保育士間で共通理解できる。

様々な見方・視点から捉えることで、たくさんの気づきがあった。

実践事例①

子どもの姿からの読み取り

絵本やままごと遊びを通して少しずつ友達との関わりが増え、友達と同じ場で遊んだり、同じ玩具で遊ぼうとしたりする姿が見られるようになってきた。



健康な心と体

- ・目的をもって意欲的に体を動かす。
- ・投げるという行動で心と体を発散してる。
- ・力の加減を知る。
- ・しゃがんでから投げたり、腕を大きく動かしたりするなど体の使い方を考える。

自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり

- ・自分でやりたいことを見つけて取り組む。
- ・どうしたら風船が取れるか考え、工夫し、目的を実践する。
- ・自分の起こしたアクションで友達が風船で遊んで喜んでることが嬉しい。自分がしたことに対する保育士や友達の反応を見ている。
- ・みんなで使うものを大切に扱う。
- ・お手玉はままごとで使うものだと保育士の言葉がけで気づく。
- ・ルールを繰り返し知らせしていく。



言葉による伝え合い

- ・本児の行動に対して、共感する声かけをすることで、うれしい気持ちや、どうしたいか、どうしてほしいのかを言葉で伝えられるようになる。

今後に向けて

- ・A児がなぜその行動をとったのか、その行動によってどんな力が育とうとしているのかなどについて具体的に読み取り、交流することで、様々な見方があることに気づくことができた。
- ・A児にとってお手玉を投げて風船を落とすという行動は、心と体の発散になり、考えたことを実践したことで発見する楽しさを感じていた。
- ・保育士にとってはままごとの素材を投げているという行動を止めたいという思いが先行してしまいがちだが、子どもの目線になって考えてみると、その行動により育とうとしているところがたくさんある。
- ・子どもの育とうとしている姿に着目して遊びを考えていくようにする。
- ・危険なことやルールからはずれてしまうことには代わりとなる遊びを工夫する必要がある。

風船が気になる！
お手玉を
投げてみよう。

風船であそびたいなあ。

どうやったら
風船がとれるかなあ？

お手玉を投げたら、
先生も友達もこっち
みってくれるかな？

風船にボール
あてたいなあ

- ・A児がままごとの素材のお手玉を上に乗せたら、たまたま天蓋に当たり、上に乗っていた風船が落ちた。
- ・天蓋に乗っている残りの風船を落とそうとしているA児。
- ・風船が落ちてきて喜ぶ周りの子どもたち。
- ・保育士はままごとの素材なので、新聞紙でボールを作ろうと提案し、新聞紙などを取りに行くためにその場を離れる。保育士がA児の元に戻るとA児は落ちた風船に興味をもち、風船で遊んでいた。

思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・やってみたら風船が落ちてきたという発見。
- ・次はどこにお手玉を当てたら風船を落とせるか考える。
- ・当てると風船が落ちてくることがわかり、何度も繰り返す。
- ・お手玉と風船、天蓋の関係に気づく。

→ 思考・予測 → 実践 → 発見



豊かな感性と表現

- ・風船が全部落ちたことで欲求が満たされる。
- ・カラフルな風船が落ちてくる美しさ
- ・お手玉が風船に当たった爽快感
- ・風船のふわふわ落ちる感覚

実践事例②

子どもの姿からの読み取り

新聞紙をちぎったり丸めたりして、その感触や音を楽しんだり、「いないいないばあ」と破った新聞紙から顔を出し、保育士や友達と笑い合ったりして喜んで遊ぶ姿が見られる。

健康な心と体

- ・体を十分に動かしながら新聞遊びを楽しむ。
- ・安心できる保育士に関わってもらうことで安心して過ごす。
- ・気持ちを受け止めてもらうことで心を落ち着かせて気持ちを切り替えることができた。



自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり

- ・C児が泣いている友達を見つけて気にかけて、何とかしてあげたいと手を差し伸べていた。
- ・C児はB児がどうしたのかなと心配する気持ち、大切に思う気持ちが育ってきている。
- ・B児は自分のイメージをもってやりたいことを見つけて遊ぶ。
- ・B児はC児に寄り添ってもらえてうれしい気持ちもある。
- ・A児は保育士に友達の思いを知らせてもらうことで、友達の思いに気づいていく。



言葉による伝え合い

- ・自分の思いを簡単な言葉で伝える。
- ・A児は保育士がB児の気持ちを代弁することでどう伝えればいいかを知る。
- ・C児 相手の話を聞く。
- ・C児の関わりを保育士が汲み取り、代弁することで簡単な言葉でB児に伝えられるようになる。

今後に向けて

- ・C児の思いを保育士が汲み取り代弁することで、B児はC児の優しさに気づくことができ、C児も優しく友達に関わる姿を受け止めてもらうことで、友達との関係が深まっていくのではないかと思います。
- ・トラブルの解決だけで終わってしまうのではなく、関わろうとしている姿を大切に、寄り添うこと・代弁することで関係を広げていく。
- ・困ったり、悲しんだりしている友達のことを思いやりながら、どうしたら良いかなと周りの友達も考えていけるような言葉かけや場を年齢や発達に合わせてつくっていく。
- ・A児、B児、C児それぞれの気持ちに寄り添い、気持ちを受け止めていきながら相手の気持ちを知らせていくことで相手の気持ちに気づけるようにし、相手への伝え方を知らせていくことを大切にしていく。
- ・子どもの行動や姿だけでなく、見通しをもった関わりができるように思いや育ちにしっかり目を向けていきたい。



- ・みんなで新聞遊びをしている中、B児がままごとコーナーに「キタロウの家を作る」と言って新聞紙を敷いて遊んでいたところ、敷いていた新聞紙をA児が持って行ってしまい、泣いているB児。
- ・C児が泣いているB児のそばに行き、B児に手を差し伸べる。
- ・B児は「いや!」と拒み、「A児がとったー」と主張する。
- ・保育士がA児と一緒にB児のところへ行き、B児には「新聞紙にとっていっちゃって悲しかったね。」など寄り添い、言葉かけをする。
- ・A児には「Aちゃんも使いたかったの?」「新聞紙持っていっちゃって悲しかったんだって。」「かしてって言うおうね。」など気持ちを受け止め、B児の気持ちを伝えながら新聞紙を返すよう話をする。
- ・C児は別の遊びに行ってしまう、その場を離れる。

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・新聞紙で感触を楽しんだり様々なものに見立てて遊ぶ。
- ・C児はB児にどうしてあげたらいいか考える。
- ・友達が怒っていることに気づき、どうしたらいいか考えている。



豊かな感性と表現

- ・自分でイメージしながら、新聞紙で表現して遊ぼうとする。
- ・自分の思いを言葉や表情、態度で表す。